

令和5年10月31日

ふじみ野市議会  
議長 島田和泉様

市民・都市常任委員会  
委員長 民部佳代

### 市民・都市常任委員会所管事務調査報告書

令和5年第2回定例会において閉会中の継続調査の申し出をした所管事務に係る特定事件の調査について、令和5年9月26日に市内の所管施設の視察調査を実施したので下記のとおり報告します。

#### 記

#### 1 調査事項

- (1) ふじみ野市のコミュニティ施設について
- (2) ふじみ野市・三芳町環境センターについて
- (3) ふじみ野市水道事業について

#### 2 出席委員

委員長	民部佳代	副委員長	坪田敏孝
委員	鈴木宏樹	委員	田中早苗
委員	島田和泉	委員	加藤恵一
委員	塚越洋一		

#### 3 調査の概要

##### (1) 市民交流プラザ

本市のコミュニティ施設の調査として、市民交流プラザを訪問し現地調査を行った。市民交流プラザは市民の幅広い活動と人とのふれあいや世代間の交流などの様々な市民交流活動を通じて、活力ある地域づくりを目的に、平成12年5月に開館した。1階は展示ルーム、A会議室、軽体操室、2階は多目的ホール、多目的ホール控え室兼打合せ室、B会議室、特別会議室、音楽練習室からなる。平成23年度から指定管理者制度を導入しており、導入当初から毎日興業株式会社

が指定管理者として運営をしている。また、市民交流プラザを含むふじみ野市総合センターフクトピアの館全体の管理も指定管理業務として依頼しているものである。

令和4年度は4,564件（稼働率53.7%）で、68,442人が利用した。市民交流プラザ単体の指定管理料として、42,673,972円を支払った。市民交流プラザの一般利用の利用料金収入は、5,589,880円だった。自主事業収入はコスモスホールと合算となるが、9,692,642円であり、3,918,521円の利益が出ている。

調査では、補正予算で可決したフクトピア全体の空調機更新工事の状況を確認した。また、令和3年6月に指定管理者が自主事業で照明機器を蛍光灯からLEDに変更をした効果や今後の取り扱いについても確認した。その他、各会議室の稼働状況や建物全体と指定管理者との関係についてどのような取り決めをしているのかといった質疑があった。

## （2）ふじみ野市・三芳町環境センター

ふじみ野市・三芳町環境センターについて、現地施設を訪問し調査を行った。本市と三芳町は、既存のごみ処理施設の老朽化に伴い、共同でふじみ野市・三芳町環境センターの整備を進め、平成28年10月に建設工事が完了した。

敷地内には可燃ごみの処理を行う熱回収施設、不燃ごみのリサイクルや空き缶・粗大ごみを処理して鉄やアルミなどを回収するリサイクルセンター、環境学習をすることができる管理・啓発施設「えこらぼ」、熱回収施設から発生する熱エネルギーを利用したバーデプールなどを備えた余熱利用施設「エコパ」が併設されている。

当施設の運営は、日立造船グループが落札し整備・運営事業となった。その日立造船を主体として設立された特別目的会社を、余熱利用施設については指定管理者として選定し、熱回収施設・リサイクル施設の運営については運營業務委託業者として契約している。また、委託期間は15年間である。

調査では、現在のごみ処理施設の管理運営状況や災害時などのごみの許容量などについて確認を行った。また、令和4年度実績としての家庭系ごみと事業系ごみの年間処理量や近隣市と事業系ごみの処理手数料の比較などについて質疑があった。

## （3）福岡浄水場及び大井浄水場

本市の水道事業の調査として、福岡浄水場及び大井浄水場を訪問し現地調査を行った。本市水道事業は、平成17年10月1日の旧市町との合併に伴う水道事業の統合により誕生した。

取水施設は、県水（埼玉県営水道からの浄水受水）と地下水（自己水源：深井戸）の2種類あり、地下水は、東側地区（福岡浄水場系）が5箇所、西側地区（大

井浄水場系)も5箇所ある。導水施設は、水源からの水を浄水場へ送る導水管が整備されている。浄水場は、福岡浄水場と大井浄水場の2箇所から構成され、福岡浄水場の地下水の浄水方法は、硝酸性窒素除去(イオン交換法)と塩素滅菌で行われている。大井浄水場の地下水の浄水処理は、塩素滅菌である。

県水(埼玉県営水道)からの浄水受水は、2箇所(福岡浄水場と大井浄水場)とも配水池にて受水している。福岡浄水場系の配水池は4池、大井浄水場系の配水池は2池、配水塔は2塔の計6池2塔が整備されている。配水は、配水池及び配水塔から各家庭に「ポンプ圧送方式」または「自然流下方式」にて行われている。

調査では、各浄水場の施設の概要を確認しながら耐震改修の状況や使われている資材の確認を行った。また、令和8年度以降の老朽管の改修など今後の水道事業の展望を聴くことができた。質疑では、耐震改修に係るクリーニング方法や使用塗料の確認などを行った。

#### (4) まとめ

##### 《委員長の所感》

9月25日、市民都市常任委員会の所管事務調査として、①福岡浄水場および大井浄水場、②ふじみ野市・三芳町環境センター、③市民交流プラザの順番で視察を行った

##### ①福岡浄水場および大井浄水場について

合併前の市町で給配水の方法が違ふことがよく理解できた。

福岡浄水場の耐震工事も順調であり、また災害時のバックアップ体制についても確認でき、有意義な視察であった。

##### ②ふじみ野市・三芳町環境センターについて

7年前の施設の操業開始の時と比較して、より効果的なリサイクルが行われるようになっていた。例えばPETボトルのリサイクルでは、当時はあまり行われていなかったボトルt oボトルが進んでいることを知った。焼却灰・飛灰のリサイクル方法も変化していたように思う。

リサイクル技術や関係法令も日進月歩であり、市議会の責任として、排出されたごみ・資源物の最終形態についても定期的に知識をアップデートする必要があるように思う。

また電池による発火事故が度々起きているとのことだが、近年急速に普及しているイヤホンやスマートウォッチなど電池を取り出せない充電式のガジェットの収集方法について市民への理解と啓発が足りないのではと感じた。

##### ③市民交流プラザについて

複合施設において指定管理者と各所管課がどの部分を管理しているのか、現地をみて理解できた。

令和3年度に指定管理者によって施設のLED化が行われたとの説明であった

が、会議室など一部の部屋だけであり、多目的ホールなどまだ実施されていない部分があるのではないかと考える。またWi-Fiも指定管理者が一部のエリアに設置しているだけである。

これらは指定管理者からの提案を待つだけでよいものか、疑問が残る。

一方、備品が無償で貸し出されている。他の施設ではピアノや音響・映像設備など備品の使用料を徴収している。低額でも使用料を徴収する代わりに、機材の状態を良好に保つほうが市民にとって使いやすい施設となるのではないかと考える。(民部佳代)

#### 《各委員の所感》

市民交流プラザでは、男女共同参画コーナーが新たに設けられており、関連図書の貸出しが行われている。同建物内に保健センター、児童センターなど出産、子育て関連施設があり、子育て中のご両親に同コーナーを利用させていただくことにつながると考える。関連の講座などを通じて市民の活動の推進につながることを期待する。

同建物内に、保健センターがあり、妊娠、出産などで、妊婦や新生児を育てる両親にはなじみのある施設であり、福祉避難所として適した場所である。避難対応などの研修に努めていただきたい。(坪田敏孝)

福岡浄水場・大井浄水場・環境センター・市民交流プラザと市内施設を視察した。各施設は、日常生活インフラや市民交流を大幅に促進する施設であり、市民生活で欠かすことのできない施設と再認識した。

環境センターは、10日分のゴミを受け入れ可能で1日最大141tのごみを処理できる。950℃で焼却できる高温高性能な炉や焼却する際に出る熱で、水を蒸気に変えタービンを回し電気を作り売電や余熱利用施設のプール加熱や施設利用電力に有効活用を行っていた。課題や警鐘は、生活に普及しているリチウムイオン電池が分別されずゴミに混入していると自然発火する等、改めて危険性や分別の大切さを認識した。(鈴木宏樹)

今年の夏は酷暑で地球沸騰化時代と言われ生態系の崩れ、気候変動により、豪雨災害等、地球環境を捉える課題が多くなった。9月26日の市民・都市常任委員会では市内の施設調査として環境センターを現地調査した。市内に13ある小学校の4年生は、毎年環境センターで学習されていることが大きな役割となっている。環境センターで一番困っていることは、リチウム電池火災といわれている。職員3人が手作業でスマートフォンの電池を取り外している作業は手間とコストがかかるようだ。各自が分別に意識を持つことで環境に優しくなると考える。

(田中早苗)

施設見学の重要なポイントは何か。

私たちが確認すべきは、市民生活の維持、安全性の確保や向上について、どのように担保されているかに尽きるものと考え。物珍しさや知らなかった場所、仕組みに興味本位な思いが中心となつては本末転倒と言わざるを得ない。

上下水道施設では、浄水場の将来的な姿や今後の想定される課題などを職員の生の声を確認できたのが良かった。

環境センターは、能力的な課題は新しい施設であることから他市の参考になる機能を備えている点は評価できるが、将来想定される関東圏での地震などによる影響など、もう少し深い点において質疑を交わしたかった。(島田和泉)

福岡浄水場、大井浄水場は、施設内部や耐震改修等の整備状況が解って良かった。老朽管の更新事業等、設備更新などを計画的に進めていくための財源など課題を感じた。

環境センターは、2026年に建設から10年が経過する。施設の長寿命化に向けて必要な補修・更新に向けての計画策定や実施が必要であると感じた。

市民交流プラザは、指定管理者の利用者満足度向上のための施設改善など行われている状況を確認した。利用率向上のための取組や施設の継続的な改善などが必要だと感じた。

総評として、継続的な委員会での視察の実施が行えると良いと考える。

(加藤恵一)

企業や現場スタッフが公共施設の浄水場やフクトピアを管理する上で、その努力や責任感を評価する方法が課題である。

これを市民に分かりやすく押し出すことで、企業の社会的責任が育ち本来の意味での「協働」が望ましい方向に発展することが期待される。フクトピアの音楽室に関しては、防音工事やドラム配置が市の責任であるべきで、児童センターへの階段は明るく改善すべきだ。

また、浄水場は災害に強い水道事業へと進んでおり、この点で職員の努力を評価する。ただし、施設の更新については具体的な計画を立て、適切な時期に進行すべきである。(塚越洋一)